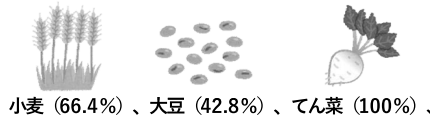


## 本道農業・農村の潜在力

### ■ 本道農業の地位

（※いずれもR3）

- ・食料自給率：223%（全国1位）
- ・農業産出額：1.3兆円（全国1位）
- ・全国一の主な農畜産物（全国シェア）



小麦（66.4%）、大豆（42.8%）、てん菜（100%）、



生乳（56.2%）、牛肉（19.9%） など

### ■ 環境への配慮

- ・「ゼロカーボン北海道」の推進



<クリーン農業・有機農業の取組成果>

【化学農薬出荷量】

H3：58kg/ha ⇒ R2：30kg/ha（48%減）

【化学肥料出荷量】

H3：812kg/ha ⇒ H28：469kg/ha（42%減）

【有機JAS認証面積】

R1：2,600ha ⇒ R4：6,226ha

### ■ 農地を守る担い手

- ・大規模で専門的な農業経営

【1農業経営体当たりの経営耕地面積】

北海道34.0ha（都府県2.4ha）※R5



- ・活力のある担い手

【基幹的農業従事者のうち65歳未満の割合】

北海道59.2%（都府県27.4%）※R5

【担い手への農地集積率】

北海道91.6%（全国59.5%）※R4

## 基本法の改正方向

### ■ 食料安全保障の確保

【ポイント】

- ・農業生産基盤の確保
- ・輸出促進を通じた食料供給能力の維持
- ・適正な価格形成の促進 など

### ■ 環境と調和のとれた食料システムの確立

【ポイント】

- ・農業生産活動、食品産業の事業活動における環境負荷低減の促進

### ■ 農業の持続的な発展

【ポイント】

- ・生産性・付加価値向上による農業の持続的発展
- ・多様な農業者による農地確保
- ・農業法人の経営基盤強化
- ・スマート技術を活用した生産性向上 など

### ■ 農村の振興

【ポイント】

- ・地域資源を活用した事業活動の促進
- ・農泊促進、農福連携の環境整備、鳥獣害対策

国の動きを“追い風”に  
さらなる取組の強化

## 第6期北海道農業・農村振興推進計画（R3～7）

### ～～～ 令和6年度重点取組事項 ～～～

#### 持続可能で生産性が高い農業・農村



- ☆ 飼料生産基盤のフル活用による道産飼料の生産拡大
- ☆ 高騰する飼料コスト削減が期待できる肉牛の早期肥育の導入
- ☆ 多様なニーズに対応した北海道米の需要拡大と生産拡大
- ほ場の大区画化や排水対策など生産基盤の整備
- 農業分野における環境負荷軽減と脱炭素化の推進
- 輸入依存度の高い麦・大豆の生産拡大
- スマート農業技術の導入と普及拡大
- 道総研との連携による品種・技術の開発・普及
- 有害鳥獣の捕獲活動や被害防止施設の整備等への支援 など

#### 国内外の需要を取り込む農業・農村



- ☆ 道産農畜産物の輸出拡大に向けた産地の機運醸成と有望市場の開拓
- ☆ ちぢみほうれんそうなど「新顔冬野菜」の生産拡大と販路の開拓
- 米や小麦、和牛など道産農畜産物のブランド力強化と消費拡大
- 多様な地域資源を活用した付加価値を創出する取組の推進 など

#### 多様な人材が活躍する農業・農村



- 次代の本道農業を担う多様な担い手の育成・確保
- 就農前の研修段階、就農直後の経営支援
- 外国人材など多様な雇用人材の確保及び農福連携の推進
- 企業の農業参入と定着に向け相談体制や掘り起こしの強化
- 働きやすい職場環境の整備に向けた意識啓発や求職者・雇用先とのマッチング支援 など

#### 道民の理解に支えられる農業・農村



- ☆ 食料安全保障に貢献する本道農業の理解促進や情報発信の強化
- ☆ 食育の推進や食品ロス対策の推進
- 農地や水路の保全管理や多様な資源を活用した地域活動への支援
- 農村地域の交流・関係人口の増加に向けた農村ツーリズムの受入体制の強化 など

☆：新規・拡充事業 ■：継続事業

本道農業の持続的な発展・我が国の食料安全保障への貢献